



今シーズンのインフルエンザについて

感染制御部

今シーズンのインフルエンザ予報

インフルエンザシーズンが始まろうとしています。すでに学級閉鎖の報告が全国的に聞かれるようになりました。今年は、流行のスタートが例年より少し早いようです。

11月には阪大病院でもインフルエンザワクチンの接種を実施いたします。(今シーズンは、昨シーズンと同じ型のウイルスが流行することが予測されていますので、ワクチンに含まれる株は昨シーズンと同じ株の組み合わせになります。一回の接種で、A(H3N2)香港型、A(H1N1)2009年流行型(豚インフルエンザ)、B型の3種類のインフルエンザに対するワクチンが同時に接種されます。

流行する株の予測の根拠としては、現在の南半球の状況を反映しています(下図)。南半球は北半球とは季節が逆で、日本の夏の間インフルエンザが流行する冬になり、すでに今シーズンの流行は終了しています。南半球の今シーズンの流行は、オーストラリアでは、8月の中旬以降にピークに達し、流行は2009年流行(H1N1)型とA香港型、B型の混合でした。ニュージーランドでは、5月半ばから8月末にかけて増加がみられ、8月末

に減少しました。この間B型が主流でした。南アメリカでは、例年より弱い流行で、チリとウルグアイではA(H1N1)2009年流行型が主流で、アルゼンチンではA(H3N2)香港型が主流でした。南アフリカでは、7月中旬にピークを迎え、8月にはおさまっており、A(H1N1)2009年流行型が主流でした。現在、西アフリカからインド、タイの熱帯地域で流行しています。

この結果から今シーズンは、例年通りかやや少ない流行であり、B型も流行することから、流行の時期は少し長引くと予想されています。

届出に関するお願い

これまでの重症患者サーベイランスに代わって、今シーズンは「インフルエンザ入院サーベイランス」になります。阪大病院では、基幹定点病院として、インフルエンザによる入院患者さんについて一週間ごとに保健所へ報告することになります。各病棟において、インフルエンザが原因で入院された患者さんがいらっしゃる場合には、感染制御部に御連絡をお願いいたします。

入院サーベイランスの目的は、新型と言われたA(H1N1)2009年流行型の病原性が変化して、重症肺炎や脳症で入院する患者さんが増加しないか、一方で、今も注目されています鳥インフルエンザがヒトに感染し新型インフルエンザに変化しないかどうか、あるいは未知の新型インフルエンザの流行がおこっていないかどうかを迅速に察知するためのサーベイランスです。職員のみなさんのご協力をよろしくお願いいたします。

南半球において分離されたウイルスの型別頻度 (WHO)

